

一主婦からの新発田市政通信

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

平成 26 年 1 月 6 日 第 13 号

あけましておめでとうございます。昨年 7 月から、突然に始めた通信を読んで下さり有難うございます。これまで皆様より直接に、また間接的に励ましのお言葉を頂いています。何かに突き動かされ、勢いだけで 12 号まで続けてきましたので、嬉しく思うと同時に、このような通信で良いのかという不安もあります。しかし、この通信が自己満足の域を越え、今の市政を少しでも変える原動力になって欲しいと願いながら今年も通信を出します。

1 議会でもっと議論して下さい

昨年の 12 月議会が終了した後の 12 月 24 日に、どういう訳か、総務常任委員会が開催され、駅前複合施設問題が再度、審議されました。

この委員会で議員から、稲穂をイメージして、菱形形状の設計になっているが、そもそも、市がこのようにして欲しいと設計者に依頼したのかどうかとの質問が出ました。この質問によって、市から要望したものではなく、設計者が考えた事だったことが明確になりました。街づくりの根幹を成す事にもかかわらず、行政は、最も大切な事を、設計者に丸投げしていた形です。質問者の議員は、図書館は作品として残す為の物ではなく、市民が主役であり、市民にとって使い易く、デザインに媚びないものであって欲しいという意見を述べていました。

設計者に、新発田市について、果たして、どれだけの予備知識があったのでしょうか。新発田市には菱形形状に設計された、ふるさと会館があり、市民には、根強い抵抗感がある事を知らなかったのでしょうか。図書館を街活性化の触媒にしようとするのであれば、もっと各方面からの事前の聞き取り調査が必要だったと思います。

その他、本会議前に開催された 12 月 13 日の総務常任委員会での意見と合わせて、①わざわざ市有地と民有地を交換し、民有地に建設予定の民間棟に行政の観光案内所を設置する事への疑問と対案、②増大すると予測される予算についての質問、③復興やオリンピックを前に高騰している資材が調達できるのか否かについての質問、④建設予定地にはニッケル残土が埋め立てに使われているのではないかと質問、⑤キッチンスタジオ、ハローワーク等についての質問、⑥もっと議論が必要等、色々な質問や意見が出ました。

このような意見の一方で、今回の委員会では、①この計画は市長の政治的判断であるので、流れに沿って会を進めるべきであるという意見、②財政力がない新発田市は、補助金に頼らなければ図書館は建設できないのだから、後戻りせず、ここまでの流れの中で議論するしかないとの意見、③場所の問題や土地取引の問題など議論するのは、機を逸している等の意見が出ました。

しかし、計画が公表された初段階から、多くの議員の方達は、図

書館建設場所を含めた複合施設についての大切な議論をして来ませんでした。議会を傍聴している限り、議会は行政の後追いをし、どの段階でも、時期を得た議論をして来なかったと思います。建設されてからでは遅いのです。今こそ、機を逸している等と言わず、計画の変更や延期も含めて議論して欲しいものです。

本会議で採択された事が再度、総務常務委員会が開催され審議されたのは、もう決まった事なのだから、議員全体を同じ方向に向け、異論が出ないようにして駅前複合施設を建設しようとする市長の思惑が働いた結果ではないかと推察します。

2 西新発田駅周辺の開発が進んでいます

ある広告誌に、西新発田の開発が進んでいるという記事がありました。それを読んだ市民の方が、「新発田駅前に複合施設を建設しても、開発の進んでいる西新発田駅周辺の方が賑やかになるのではないかと」言われていたそうです。西新発田駅が橋上化され両方向に改札口ができれば、もっと開発が進むのではないかと思います。

かつて、買い物客が、中心市街地からコモタウンへと移り、今度はコモタウンから西新発田駅周辺へと移ろうとしています。大型店のユニクロ、サンキはすでにコモタウンから西新発田駅近郊に移転しました。荒町バイパスが五十公野まで開通すれば、西新発田駅方面へと、もっと人が流れるでしょう。コモタウンは今後どうなるのでしょうか。残されたものは、なおざりにされ衰退していくのでしょうか。これらの事は街づくりに一貫性がないからだと思いません。しかし、愚痴を言っても始まりません。これ以上、街が寂れないよう、商店街を歩き、商店に立ち寄りて下さい。そして店主の方と会話してみてください。大型店にはない魅力を発見し、また来ようと思う店を見つけて下さい。商店主の方々も、大型店には無い独自の店づくりを目指して下さい。

3 新発田市を LED 電気でもるくしましょう

赤谷遊歩道では、震災後の節電対策の為に、外灯が夜 8 時には消されているそうです。近郊住民の方の、暗くて物騒との声があります。ここだけではなく、他にも同様の場所があると思います。不審者が出没している事からも、以前のように夜 10 時位まで外灯がついていれば、今より安心・安全が得られると思います。

節電を考えるのであれば、新たな外灯設置場所や電球が壊れた場所の外灯から順次、LED 電気に交換してはどうでしょうか。これにより、新発田市全体が明るくなり、夜 8 時以降も市民が安心して街を歩けます。現在、商店街アーケードの電気代を支払っているという店主の方々も喜ばれるのではないのでしょうか。また、明るくなれば、新発田市全体が今より活気づくのではないのでしょうか。

新たな道路や建物に税金を使うより、今ある物を如何に活用するかを考える必要があります。一時的に高価なものとなっても、将来的には採算が取れ、安心・安全の街づくりに寄与すると思います。